

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
平成30年 6月 30日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 東京都港区赤坂九丁目7番1号ミッドタウン・タワー	
氏 名 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社	
代表取締役社長 吉松 民雄	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 東海工場
事業場の所在地	愛知県東海市南柴田町トの割266-18 052-603-1231
計画期間	2017年4月1日～2018年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	10：飲料・たばこ・飼料製造業
② 事業の規模	製品出荷額 32,346,193千円 (2017年4月1日～2018年3月31日)
③ 従業員数	190名 (平成30年3月31日現在)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	資料-1 資料-2 (事業所配置図)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
産業廃棄物の排出抑制及び適正処理に係る基本方針 ・現場における分別廃棄の徹底 ・廃棄物保管場所（再資源化物置場）の適正管理 ・法令を遵守し適正に委託処理をする ・マニフェストの適正管理 ・委託契約先の処理状況等について現地確認の実施（1回以上/年） （管理体制図） ・総括責任者：工場長 嶋貝敦之 ・担当者：管理課 嶋田正照 添付資料 ・産業廃棄物処理に関する管理組織図 資料-3			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2017 年度）実績】		別紙のとおり
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	
	排 出 量	t	t
	（これまでに実施した取組） 清涼飲料製造という弊事業所において、特にコーヒーや茶系飲料製造量の増減に比例し動植物性残渣の発生量が増減します。それらについては最終処分量について再資源化率が99%以上を維持達成している。		
② 計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	
	排 出 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 茶滓を有価物として取引可能な業者を選択することにより産業廃棄物の排出量を抑える。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 機器、装置を廃棄する場合、可能な限り材質別に分解し廃棄をしている。		

②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 金属とプラの混合廃棄物は分別することにより有償化する。
-----	--

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2017年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 弊事業所ではこれまで産業廃棄物の再生利用の実績はありません		
② 計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 今年度中では再生利用の計画はありません。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2017年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣、汚泥	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 平成17年より稼働開始した「メタン発酵システム（有機性廃棄物処理設備）」により、動植物性残渣と排水汚泥については減容化を実施している		
②計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t

	(今後実施する予定の取組) 有機性廃棄物（コーヒー粕、茶滓、余剰汚泥）の減容化を着実に進め メタン処理後の残渣もすべて堆肥原料化の推進
--	---

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2017 年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 弊事業所ではこれまで産業廃棄物の埋め立て処分、海洋投入の実績はありません		
② 計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今年度中では埋め立て処分、海洋投入の計画はありません。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（2017 年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t

	(これまでに実施した取組) 工場から排出した産業廃棄物が不法投棄、不法利用されないように 優良な産業廃棄物業者に処分委託している
--	--

(第5面)

② 計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) これからも工場から排出した産業廃棄物が不法投棄、 不法利用されないように 優良な産業廃棄物業者に処分委託する		
	※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙

産業廃棄物の廃出の抑制に関する事項

現状（平成29年実績）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
排出量	38,813.36	7,385.72	0	59.91	0	0	0.194	196.09	0.5

計画（平成30年目標）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
排出量	38,500	7,300	0	59	0	0	0.19	195	1

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

現状（平成29年実績）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0

計画（平成30年目標）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

現状（平成29年実績）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自ら中間処理により減量となった産業廃棄物の量	37,879.48	1,183.1	0	0	0	0	0	0	0

計画（平成30年目標）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自ら中間処理により減量となる産業廃棄物の量	38,000	1,200	0	0	0	0	0	0	0

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

現状（平成29年実績）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0

計画（平成30年目標）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

現状（平成29年実績）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
全処理委託量	933.88	6,202.62	0	59.91	0	0	0.194	196.09	0.5
再生利用業者への処理委託量	933.88	6,202.62	0	59.91	0	0	0.194	196.09	0.5
認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0

計画（平成30年目標）

単位:トン

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	紙くず	廃プラスチック類	廃プラ(PET)	金属くず	ガラスくず	廃酸	廃油
全処理委託量	900	6,200	0	59	0	0	0.19	195	1
再生利用業者への処理委託量	900	6,200	0	59	0	0	0.19	195	1
認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0